

令和5年度 第3回学校運営協議会（議事録）

1 日 時 令和5年11月7日（火） 午後2時から4時

2 場 所 藤枝西高等学校 会議室

3 参加者

会 長	鈴木 尚夫	元公立中学校長
副会長	高橋 等	静岡産業大学教授
委 員	中西 康人	西益津地区支部長
委 員	伊東 邦雄	「日知塾プロジェクト」コーディネーター
委 員	小野 朋代	「ZUMBA プロジェクト」コーディネーター

校長（竹村）、副校長（野澤）、教頭（秋月）、事務長（岩本）、総務・図書課長（山本）、
教務主任（大村）、生徒指導主事（杉本）、進路指導主事（赤池）
記録：総務・図書課員（望月）

4 内 容

(1) 校長挨拶

9月末には体育祭を実施した。3年生は進路が決まっている生徒もいるが、これからが本番。11月28日から沖縄に研修旅行へ行く。インフルエンザで欠席する生徒が多い日が続いている。心の悩みを抱える生徒に対してはスクールカウンセラーの意見を聞きながら対応していく。令和6年度の募集定員は4クラスを維持。藤枝西高校の魅力を発信していく必要がある。他校と異なる特色はコミュニティ・スクール、グローバルプログラム、キャリア教育の3点であると評価されている。歴史と伝統に奢ることなく、これまで以上に地域に愛される学校になるよう努めていく。運営協議会の皆様には、本校の現状を見てより良い学校づくりに向け忌憚のない御意見をいただきたい。

(2) 校内見学…生徒授業風景等

(3) 学校運営の進捗状況について

ア 各分掌について

(ア) 総務・図書課

第2回評議員会を書面にて開催し、PTA役員の皆様にアンケートを取った。現在集計中である。

(イ) 教務・情報課

教職員減に伴い、試験監督や学校行事等の様々なところで人員が足りない状況が続いている。学習時間調査の結果、6月と比較すると休日の学習時間は増えているが平日は減っている。学習している生徒としていない生徒の二極化がみられる。結果を踏まえ、生徒の指導に生かしていきたい。年度当初に定めた学校経営目標である「放課後及び家庭で、平日2時間、休日3時間以上勉強している生徒の割合50%以上」については達成している。インフルエンザによる欠席数が増加しており、養護教諭と協力して学級閉鎖にならないように注視していく。現在、相互授業参観期間中である。

(ウ) 生徒・保健課

長期休業中のアルバイトについては認めていなかったが、家庭の経済的な事情で生徒・保護者から申し出があり、その生徒について許可した。成績や生活態度に問題がなければ許可していく方針。本校ではスマートフォンは電源を切ってバッグの中にしまう規則となっており、無断使用に対する指導方針は、風紀委員会で生徒たちが決めた罰則を定めている。最近校内での使用が見られているため、指導内容を検討し、ルールについて徹底させていく。

(エ) 進路課

3年生は、LHRの時間に進路実現に向けて入試理解を深める活動を進めている。夏休みの面談を通して、進路実現に向けて取り組んでいる。3年生の半数以上が総合型選抜や学校推薦型選抜を利用する。全職員で面接指導、小論文指導をしている。ただし、推薦入試に傾倒することなく一般入試で入学できる実力をつけるよう指導していく。共通テストもほぼ全員が受験する。

イ 来年度のコミュニティ・スクール事業について

<副校長> 令和2年度から4年目を迎えたコミュニティ・スクール事業について、10月に行われた職員会議にて合意を得られた結果を別紙に示す。事業見直しの観点から、概要の通り進めていく。

ウ グローバルプログラム事業について

<副校長> 職員会議で職員と共有した結果を別紙に示す。事業の詳細、参加人数を見ると、多くの生徒が自主的に参加していることが分かる。グローバル人材を目指して多くの生徒が頑張っている。本校の一つの特色としているため、次年度以降も継続していく。グローバルスタディーズプログラムを来月末に実施するに当たり、藤枝東高校、焼津中央高校と準備を進めている状況。

エ 施設改修について

<事務長> 本校も開校から20年が経ち、かなり老朽化している設備があるため、本年度末から来年度に向けて、改修を検討しているものがある。グラウンドの散水設備、特別教室及び普通教室の一部の空調設備、トイレの洋式化、用水ポンプの交換などの改修を計画している。その他、非常用放送設備の修理、プール本体の塗装劣化の補修、高電圧設備の交換、校舎屋上の防水塗装の補修などについて予算要求中である。

(4) 協議・意見交換

ア 学校運営全般について

<鈴木委員長> スマートフォンの使用に問題があるとのこと。昨今の事件報道を見るとSNS等で繋がり犯罪に巻き込まれる事件が見られる。難しい指導だと思うが、学校内、学校外の注意喚起について課題等はあるか。

<生徒・保健課長> 本校ではネット安心講座を毎年一回行っている。また、警察がネットパトロールを行っており、個人情報や問題投稿があれば学校に情報が入り、個別に指導をしている。

<鈴木委員長> 先生の数が少なく、かなり人数的に厳しい状況が伺える。学校運営に関して御苦労が多いのか、聞きたい。

<中西委員> この状況は西高に限った話なのか。

＜小野委員＞ ボランティアを募集するなど対応は取らないのか。

＜教頭＞ 業務の簡略化を図りながら人員の配置を工夫するなどして対応していきたい。

イ コミュニティ・スクールについて

(ア) ズンバプロジェクトについて

＜小野委員＞ ズンバの廃止について、保護者としての意見にもなるが、公立高校は特色が大事で、こういう学校へ行きたいという気持ちが大切である。その子が伸びるのであれば何でも良い。勉強以外で特色を出していく必要がある。コーディネータが調整役として雑務をすべて行い、生徒会に運営をやらせてはどうか。ズンバの現場を見ていない先生もいるのでアンケート結果に納得ができない。

＜伊東委員＞ 先生方は直接もしくは生徒の意見を通してアンケートに回答しており、学校としてはアンケートの結果を踏まえて出した判断だと思う。

＜中西委員＞ 自治会の方でも、様々な事業を今後継続していけるのかという話が上がっている。西益津自治会ではコミュニティーシステムがあり、様々な事業を手伝ってくれる環境がある。そのようなフォロー体制が整っているから進めていくことができている。ズンバについても、何かしらのフォローがないと事業を進めていくのは難しいのではないか。

＜高橋委員＞ アンケートによる決断となったのは大きいと思う。マンパワーをどこに注ぐか、まずは授業であると考えるが、経営判断は校長先生に委ねるところ。

＜鈴木委員長＞ 西高の特色の大きな柱として続けてきた思いや願いがあることは理解できる。西高らしさでもあり、子どもたちの精神面を支えてきたと思う。西高の特色、西高らしさが出せるものが必要である。負担がないような形で、今後の在り方を示してほしい。

(イ) 日知塾プロジェクトについて

＜伊東委員＞ 他地域も視野に入れることについて、葉梨中学校では生徒の自習室として月に1回、水曜日15時から16時に教室を開放して自習する場を設けている。ただその時間は高校生も授業等があり、参加は難しい。現在の夜間の日知塾は、働き方改革に反してしまう現状ではある。現在は西益津中、西益津小、藤岡小にチラシを配布している。他地域に広げるといことであれば範囲が広がり、他の学校の生徒も来ることになり、PTA役員や先生の負担が増えることが予想される。他地域にもコーディネータを配置するのはどうか。西益津社会福祉協議会は支援センターの借用費がかからない。他の地域も同じように広がっていけるか。通学距離が遠い生徒のことを考えた場所で実施できないか検討が必要。

＜鈴木委員長＞ 他地域に広げた場合の課題も検討していかなければならない。

(ウ) 花いっぱいプロジェクトについて《御意見なし》

ウ グローバルプログラムについて《御意見なし》

エ 学校設備について

＜鈴木委員長＞ 空調設備について、前回電気代が高く、エアコンの利きが悪いということがあったが、どうなっているか。

＜事務長＞ 予算が厳しい状況ではあるが、生徒の体調面を第一に考え、使用していく。

＜鈴木委員長＞ 協議・意見交換について、様々な意見が出たということを学校はお含みいた

だきたい。

<副校長> 西高らしさを出していく必要があるという御意見をいただいたので、コミュニティ・スクール事業のあり方などについて、学校として再検討を行っていきたい。次回の学校運営協議会では、来年度の方向性について報告する。